

# 第108号 特輯〈博士論文〉 特別合評会のお知らせ

2023年12月15日(金)午前10時～12時

\*ハイブリッド形式で開催\*

対面：駒場キャンパス 18号館 3階コラボレーションルーム 1

ズーム URL：会員宛に郵送する案内状、及びメーリングリストでの案内をご参照ください。

(会員でない方は、「[today-hikaku@fusehime.c.u-tokyo.ac.jp](mailto:today-hikaku@fusehime.c.u-tokyo.ac.jp)」までお問い合わせください)

司会：佐々木悠介(東京大学)

討議者：今橋映子(東京大学)

：國分功一郎(東京大学)

：後藤健介(東京大学出版会・編集局次長 編集長)

：李賢峻(イ・ヒョンジュン 武蔵野大学)

## 比較文學研究

特輯 博士論文

【巻頭言】博士論文私見	三浦 雅(1)
人文系博士論文—理念と現実のほざまで	今橋 映子(5)
【海外で博士号を取るということ】	
博士論文を書きながら研究に目覚める—ロンドンで過ごした	佐藤 光(14)
至福の日々	守田 真由(17)
フランスで博士号を受けるということ	前島 志保(20)
転石のつづき—制度転換期における北米日本研究留学	石原 剛(24)
テキサスの空の下で—アメリカ留学奮闘記	呉 龍輝(27)
日本で博士論文を書く—学期の自由とは何か	藤田 悠(31)
【博士論文の書き方—田舎者編—】	
藤田悠/信岡朝子/佐々木悠介/李賢峻/藤江秀史/太西由紀/	
松尾崇洋/山下弘史/松枝佳奈	
【博士論文の書き方—田舎者編—】	
藤田悠/森永豊/西田朝子/李太喜	(64)
【博士を目指す人へ】	
若手奨励研究プログラム十五年の記録(2007-2021)	今橋 映子・佐藤 光(72)
〈博士論文〉をめぐる本—批評的視点 2022年	今橋 映子(76)
【博士論文審査結果発表+博士論文公開審査結果】	
文原純/小村健夫/大西(伊藤)由紀/松尾崇洋/カバットアダムアキラ/	(82)
藤田悠/西田朝子/松野絵奈/二村淳子/鈴木雄夫/李太喜/定村来人/	
藤田悠/中根正/月白龍	
〈重訳〉語誌略説	吉田島洋介(165)
【新出】ガブリエレ・ロッセティのダンテ受容に関する森岡外康稿	
藤田悠/新田 悠/山本 智之、朝田 奈月、アキマコ・ムラタツキア(177)	
【書評】	
『2000年代の日本文学と批評』(西原大輔)	竹内 晶子(184)
『詩文と経世 藤田鳴鶴の十八世紀』(山本嘉孝)	沼田 紗織(187)
『ポスト近代美術史—フランス支配下の半世紀』(二村淳子)	小泉 雅也(190)
『小説』(日本書紀)—カボロコ下代となる戦後の	
日中間接(徳本寿子)	朱 芸輝(194)
『鈴木貫太郎 用うるに多かるはなし』(小龍佳一郎)	福賀 聖美(197)
【読書会&カクログ】	
『読書会—吹雪を越した花鳥園』展	山本 智之(201)
『日本書紀』(日本書紀)	古部 遼(204)
【Le Rond-Point】	
—高の国語教科書	田村 隆(207)
外国語要約	(1)

比較文學研究

第108号

特輯 博士論文

二〇二三

東大比較文學會

東大比較文學會は毎年この時期、若手コロキウム開催の午前中に、同年発行の最新号掲載の論文を二、三本取り上げて、会員同士で合評会を行ってきました。

2023年1月に発行した108号は〈博士論文〉の特集を組み、学術論文というより、博士号や博士課程の現在を考える学術的エッセイ、海外で博士号を取るということ、博士論文を刊行本にするまでの過程や醍醐味、問題点などを語

るエッセイ、博士論文をめぐる批評的書誌など、改めて多方面から、制度と学問を考えるよすがとしました。幸い学内外で反響もいただき、人文系学問と博士論文との関係を何度でも議論する必要があると、編集部一同考えた次第です。

108号の詳細目次は次の URL でご覧下さい。

[http://www.todai-hikaku.org/comparative\\_literature/archive\\_108.html](http://www.todai-hikaku.org/comparative_literature/archive_108.html)

また、同号が『毎日新聞』2023年5月30日朝刊でも紹介されましたのでご案内いたします(有料記事)。

<https://mainichi.jp/articles/20230530/ddm/005/070/006000c>

今回、編集部の発案で、学会員以外からも討議者にお越し頂き、108号を出発点として自由に語り、論議する合評会を開くことになりました。

108号責任編集者の今橋映子の他、学会外から哲学ご専門の國分功一郎氏、出版の最前線で博論刊行と向き合っている後藤健介氏、博論刊行本が高く評価された李賢峻氏(会員)の御三人にご発言頂きます。司会は、佐々木悠介が務めます。

博士論文執筆中あるいは、博論刊行を目指している方などにも興味深い話や議論が展開されると思います。

金曜日の午前中の開催となりますが、下記のようにハイブリッド方式で行いますので、対面あるいはオンラインで奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

\*なお、東大比較文学會会員でない方には、当日会場で108号を購入(現金のみ)することが可能です。

東大比較文学會編集部合評会担当:佐々木悠介

同編集部108号編集・執筆 :今橋映子